

朝の礼拝

聖書 詩編 8章 4-5節 (旧約聖書 840頁)

- 4 あなたの天を、あなたの指の業を  
わたしは仰ぎます。  
月も、星も、あなたが配置なさったもの。
- 5 そのあなたが御心に留めてくださるとは  
人間は何ものなのでしょう。  
人の子は何ものなのでしょう  
あなたが顧みてくださるとは。

わたしは仰ぎます

古代の人々は空の上には大海があると信じていました。でも神様が空に天蓋（てんがい）を造られ、大雨や洪水から人間を守って下さっていると信じていたのです。だから彼らは天を仰いで神様に祈っていたのです。

でも、今お読みした詩編にある天蓋には太陽がありません。古代の人々は神様が太陽の光で世界に秩序を与えられたと信じていました。ところが夜に広がる暗闇は人間に不安と恐れを抱かせるものでした。この詩人は夜空を見つめながら祈っていたのです。

私が高校生の頃、夜、富士山麓の青木ヶ原に漆黒の暗闇が広がっているのを遠くから見たことがありました。目を覆いたいほどの恐れを感じながらも、なぜか吸い込まれていくような不思議な体験でした。自分が大自然の中にぽつんとひとり置かれ、人間はなんて脆（もろ）くて弱く、儂（はかな）い存在かと感じた瞬間でした。

詩編8編の詩人は自分が取るに足りない存在だと告白しています。しかし月や星の光を見つめながら「あなたが配置なさったもの」と歌います。そして人間はとても小さな、小さな存在なのに、それでも「御心に留めてくださるとは」、「あなたが顧みてくださるとは」

と歌っています。闇夜に満ち欠けする月、かすかに小さく輝く星たちを見つめながら、この詩人は不安や恐れにあっても、神様はわたしを忘れずに共におられることに安らぎを覚え、感謝し祈っているのです。

祈祷 祈りましょう

わたしたちを愛し、わたしたちを励まされる主よ。

あなたは闇夜で天を仰ぐ詩人を通して、私たちが不安と恐れにあっても共におられることを示して下さいました。どうか、今日一日もすべてをあなたに委ね、御心に適う道を歩ませて下さい。

また、先の台風で被災され困難な生活にある方々のために祈ります。どうか多くの方々の支えと励ましにより、新しい生活の上に希望が与えられますように。

主イエス・キリストの御名によってお願いいたします。アーメン